

2022年度 公共 学習プリント

第5講 「よく生きる」ってなんだろう？

1. ギリシャ哲学における「徳」

古くから哲学では、「よい」ということを、「人間として優れている」とか、「(1.)」と表現してきた。

古代ギリシャでは、職人の技術の高さ、政治家の演説の巧みさ、お金儲けのうまさを、人間としてのよさだとする考え方があった。しかし、(2.)は、人間そのものの善さが大切であり、「(3.)」ことを主張した。(4.)は、合理的な基準に照らして公平に扱う(5.),相手の向上を願う思いやりや行為である(6.)を主張した。

2. 中国儒教における「徳」

中国で(7.)が始めた(8.)では、人間関係において最も重要な徳として思いやりである(9.)と、それが実際に行きとして現れることである(10.)をあげている。これらは、単に個人の心構えではなく、よりよい社会を実現するための、共同体に共通の価値観(11.)として主張されたものであると考えられる。

3. よりよい共同体のあり方

古代社会では、社会が安定していることがよいこととされた。そのためには人々の関係や秩序が壊れないほうが良いと考えられ、人は身分・職業・立場といった、社会の中での自分の位置を外れないことが求められた。古代ギリシャでは、(12.)が、統治者は知恵を、防衛者は勇気を発揮すべきというように、自分の本来の役割を果たすことが

徳であるとされた。中国儒教では、自分の役割、立場を守ること((13.))が重視され、(14.)は名分を明確に礼だと考えていた。

4. 個人の自由と共同体

現代では、身分制度や格差が問題視され、社会のあり方が変化してきている。人間は本来個人であり自由な存在であるとみなし、社会は個人どうしの契約で成り立っているという考え方がでてきた。個人の価値観を尊重し、自分の自由や利益と、他人の自由や利益を互いに侵害しないことが、義務であり正義であるとされる。

私たちは、個人と共同体の関係について、現代なりの共通善を考える必要があるだろう。